

病院長に聞く

病院長 平野 典和



新年のご挨拶



皆様明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い申し上げます。本来ならば共に新年を寿ぎたいところですが、さて新型コロナウイルス感染症は如何になっているのでしょうか。この挨拶は昨年11月中頃にしたためておりますが、富山県内では新型コロナウイルス感染症の新規感染がない日々が続いています。しかし、諸外国では感染の再流行も報じられており、予断を許さない状況です。昨年のいわゆる第5波では県から要請された最大15人の入院患者数を超える日が26日もありました。とくに日中は入院と退院が重なるため25名を超える日も続き、8月後半には30名まで受け入れる体制を整えました。最終的に第5波では90名に近い入院治療を行ったこととなります。テレビ等でご覧になった方もあると思いますが、コロナ病棟では特別の設備や手順などが必要になります。特に重要なのは看護師の役割です。感染防止のために特別な防御衣の着用が必要になります。実はこの防護衣の着脱が問題で、手順を何度も練習しないと自ら感染を被ることになりかねません。また、防御衣は通気性のない素材ですので、短時間で汗にまみれることとなります。さらにレントゲン検査や食事の提供にも感染防御を徹底しなくてはなりません。マスクなどでは「病床」の不足云々とよく伝えられましたが、実施に不足なのは人、特に看護師です。当院を含めて多くの病院では看護師は慢性的に不足しています。また、家庭の都合などによりコロナ病棟勤務を望まない方もいます。そこにいくらコロナ患者が急増したからと言って簡単にコロナ病床を増やせるものではありません。幸い労災病院では感染が拡大する前から体制を整えていたことや、看護師などにも積極的に参加してもらったおかげで第5波の危機的状況を乗り越えることができました。あらためて医療は人がなす業であることを認識することになりました。

話は変わりますが、私は昨年11月2日に魚津市から「地域医療功労」として市民栄誉賞を頂きました。香りも高い地元産の杉材で出来た立派な表彰状(写真)で、市役所で多くの来賓が招かれた中で表彰されました。誠に光栄ではありますが、市民栄誉賞には団体としての顕彰はないようですので労災病院を代表して市から頂いたものと理解しています。本当にありがとうございました。



発行：独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ (URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>)

にも掲載しています。

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280 (病院代表)

E-mail chiiki2@toyamah.johas.go.jp



▶バックナンバーはこちらの

QRコードからも確認できます。